

視点の違いによる医療コミュニケーションギャップをマンガ化！
“自治体×マンガ専門家×医療従事者”の異業種コラボで創り上げるマンガ賞
視点が変わる「医療マンガ大賞」創設



横浜市では、市民の皆様に医療を「他人ごと」ではなく自分自身のことと捉えていただけるよう、民間企業等との連携による手法で医療広報を実施する「医療の視点」プロジェクトに取り組んでいます。

このたび、マンガを活用した医療に関するコミュニケーションギャップの改善を目的に、患者や医療従事者が体験したエピソードに基づいて“視点の違い”を描くマンガ賞「医療マンガ大賞」の取組を開始します。

9月30日（月）17:30~19:00（受付開始17:00）にBankART Stationにて開催するトークセッションでは、佐渡島庸平さん（株式会社コルク／編集者）のほか、審査員を務めるマンガ家や医療従事者が多数登壇し、医療とマンガの可能性をテーマにお話しします。



なお、募集要項やエピソードの詳細はトークセッション開催前の9月25日（水）から、以下のホームページにて公開します。

「医療マンガ大賞」ホームページ URL <https://medical-manga.comici.jp>

1 「医療マンガ大賞」とは？

同じ出来事でも、患者と医療従事者では受け取り方や感じ方が異なることに着目し、各々の視点からの捉え方をマンガ化することで、視点の違いに互いに気づき、共感を促進することを目指します。

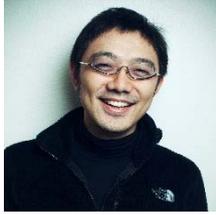
マンガには、ストーリーに沿って感情移入しやすいという特徴があり、近年ではスマートフォンで読むマンガ市場が成長しているなど、馴染み深い手法です。さらに「グラフィック・メディシン[※]」という概念が提唱されるなど、コミュニケーションギャップの改善に有効な手法であると考えます。

※グラフィック・メディシンは、2007年にイギリスのコミックス・アーティストであるイアン・ウィリアムズを中心に提唱された概念です。コミックス表現がどのように医療の領域を扱うことができるかを包括的に探る試みです。

【裏面あり】

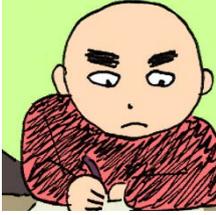
2 審査員紹介

応募作品の審査は、最前線で活躍するマンガ家や編集者、医療従事者等が行います。（順不同）



佐渡島 庸平／(株)コルク代表取締役会長（編集者）

東京大学文学部卒業。講談社を経て、2012年クリエイターのエージェント会社、株式会社コルクを創業。三田紀房、安野モヨコ、小山宙哉ら著名作家陣とエージェント契約を結び、作品編集、著作権管理、ファンコミュニティ形成・運営などを行う。従来の出版流通の形のあるインターネット時代のエンターテインメントのモデル構築を目指している。



こしの りょう（マンガ家）

2004年に「モーニング」にて『NS'あおい』でデビュー。2006年には同作品がテレビドラマ化された。2011年から「週刊現代」（講談社）で『町医者ジャンボ』を連載。2013年には同作品がテレビドラマ化。現在は「週刊現代」で『銀行渉外担当 竹中治夫』、看護雑誌で現場の看護師さん取材して描いている『はなうた』を連載中。



大塚 篤司／SNS医療のカタチ（医師・コラムニスト）

2003年信州大学医学部卒業。2012年チューリヒ大学病院客員研究員を経て2017年から京都大学大学院特定准教授。皮膚科専門医、がん治療認定医。2018年より、SNS時代の新しい医療の啓蒙活動を行う「SNS医療のカタチ」プロジェクト活動を行う。



井上 祥／(株)メディカルノート代表取締役・共同創業者（医師）

2009年横浜市立大学医学部卒業。横浜労災病院初期研修医を経て2011年より横浜市立大学大学院医学教育学・消化器内科学、2015年3月に医学博士。一般生活者の医療リテラシー向上を理念に大学院在学中の2014年10月に株式会社メディカルノートを創業し現在、代表取締役。横浜市立大学医学部非常勤講師。日本医療機能評価機構 EBM 普及推進事業運営委員。JAMSNET 東京理事。



筑丸 志津子（医師）

1986年東海大学医学部卒業。その後関東通信病院で内科、麻酔科、皮膚科診療に従事。2002年横浜市青葉区に「松風台クリニック」を開設。2004年10月「ケセラスキンケアクリニック」を開設。横浜市青葉区医師会副会長を務めた後、2019年より横浜市医師会常任理事。



荒木田 百合（横浜市副市長）

1982年横浜市入庁。区役所勤務時代に子育て現場の実情を目の当たりにした経験を胸に、こども青少年局の立ち上げに携わる。みなとみらい21担当やこども青少年局地域子育て支援課長、政策局担当理事などを経て、2018年に内部の女性職員としては初となる副市長に就任。

3 「医療マンガ大賞」トークセッション

「医療マンガ大賞」発表にあたり、「医療とマンガの可能性」をテーマにトークセッションイベントを開催いたします。編集者、マンガ家、医療従事者、それぞれの視点から、これからの医療に求められる情報発信から、医療に関するマンガ作品を執筆する際のポイントまで、ここでしか聞くことのできない内容のトークセッションイベントです。どなたでもご参加いただけます。

「医療マンガ大賞」トークセッション 開催概要	
日 時	令和元年9月30日(月) 17:30~19:00(受付開始 17:00)
場 所	BankART Station (横浜市西区みなとみらい5-1 みなとみらい線新高島駅直結)
登壇者	佐渡島 庸平 (㈱コルク代表取締役会長/編集者) こしの りょう (マンガ家) 大塚 篤司 (SNS 医療のカタチ/医師) 井上 祥 (㈱メディカルノート代表取締役・共同創業者/医師)
プログラム	医療マンガ大賞趣旨説明、医療とマンガの可能性をテーマにしたトークセッション、フォトセッションなど
対 象	一般参加者、医療マンガ大賞への応募を検討しているマンガ家、メディア関係者 合計100名~200名予定
入 場 料	無料
参加申込方法	<ul style="list-style-type: none"> ■メディア関係者申込先：添付のFAX 用紙またはメールにて、下記問合せ先までご返信ください。 ■その他の方の申込先：下記のURLよりお申込みください。 (URL) https://iryo-manga-taisho.peatix.com

4 連携先紹介



株式会社コミチ

2018年3月に設立し、マンガ家向けのコミュニティサービスを運営。
 マンガ家の登録者数は350名を超え、月間の投稿数は1,000以上。



MedicalNote

株式会社メディカルノート

医療情報プラットフォーム「メディカルノート」を運営。(https://medicalnote.jp/)
 月間利用者数は2,000万ユーザー。信頼性の高いサイトとして平成30年度よりYahoo!検索とも連携。
 横浜市とは、医療に関する総合的な市民啓発に関する連携協定を締結。



SNS 医療のカタチ

医師と患者(家族)、患者と家族・友人、医師と看護師・薬剤師などの間で医療に関する情報が今まで以上に適切に交換されるよう、医療コミュニケーションについての啓発活動を行う、SNS時代の新しい医療の啓蒙を行うプロジェクト。所属に、大塚篤司先生、けいゆう先生、ほむほむ先生、ヤンデル先生など。(順不同)

(参考) 医療の視点



「医療への視点が少し変わること、異なる気づきが得られ、行動につながる」をコンセプトに昨年9月から取組をスタートしています。民間企業等との連携や、市民の皆様の関心事にフォーカスすることで、より印象に残りやすく、伝わりやすい広報に様々な切り口で取り組んでいます。

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryo/iryo/iryonoshiten/iryonoshiten.html>

お問合せ先	
(実施内容に関すること)	医療局医療政策課情報企画担当課長 小川 亨 Tel 045-671-4813
(イベント取材申込先)	株式会社オズマピーアール Tel 03-4531-0212

取材申込ファックス返信用紙（9月29日まで）

FAX : 03-5226-6410

または Eメール : city.yokohama@ozma.co.jp

横浜市医療局 広報事務局（代行：オズマピーアール 鈴木、田崎、飯嶋）宛

**視点の違いによる医療コミュニケーションギャップをマンガ化！
“自治体×マンガ専門家×医療従事者”の異業種コラボで創り上げるマンガ賞
視点が変わる「医療マンガ大賞」創設**

日程 : 令和元年9月30日（月）17:30～19:00（受付開始17:00）

会場 : BankART Station（横浜市西区みなとみらい5-1 みなとみらい線新高島駅直結）

登壇者 : 佐渡島 庸平（㈱コルク代表取締役会長／編集者）

このりょう（マンガ家）

大塚 篤司（SNS医療のカタチ／医師）

井上 祥（㈱メディカルノート代表取締役・共同創業者／医師）

ご出席 **ご欠席** **ご欠席（資料送付希望）**

※恐れ入りますが、ご出欠の都合を 9月29日（日） までに
お知らせ下さいますようお願い申し上げます。

貴社名 : _____

ご所属 : _____

ご芳名 : _____（ご参加人数 : _____）

カメラ : 有（スチール／ENG） 無

ご連絡先 : _____（TEL） _____（MAIL）

通信欄 : _____（個別取材のご希望など）

* 本票にご記入頂きました個人情報、本件の広報活動に限り利用し、それ以外の目的で利用することはありません。
* その他、個別のご取材を希望の方は、通信欄に特記事項ご記入の上、事前に事務局までお問い合わせください。

◀ **ご掲載・ご取材等に関する報道関係の方のお問い合わせ** ▶

横浜市医療局 広報事務局（オズマピーアール内）担当：鈴木/田崎/飯嶋

TEL:03-4531-0212 FAX:03-5226-6410 E-mail: city.yokohama@ozma.co.jp